

**研究課題名：粘液型脂肪肉腫における Peroxisome  
Proliferator-Activated Receptor  $\gamma$  (PPAR $\gamma$  : ペルオキシゾー  
ム増殖剤応答性受容体 $\gamma$ ) の発現と臨床経過との相関の解析**

**<対象者情報>**

～金沢大学附属病院で粘液型脂肪肉腫の手術をうけられた患者様へ～

現在、過去に粘液型脂肪肉腫の治療を受けられた患者様を対象に研究を行っております。過去に粘液型脂肪肉腫により治療を受けられた方にこの遺伝子解析研究の詳細をお知らせするために、院内及びホームページ上でお知らせしています。

**<研究の背景・目的・意義>**

脂肪肉腫は悪性軟部腫瘍の中で、頻度の高い腫瘍の1つです。顕微鏡による病理診断では、さらに以下の4つの亜型に分類されています（高分化型、脱分化型、粘液型、多形型）。その中でも粘液型脂肪肉腫は脂肪肉腫の中で30%ほどの割合とされ、低～中等度の悪性度（再発や転移の頻度はそれほど高くない）とされていますが、顕微鏡の診断で円形細胞と呼ばれるものの領域が5%以上となると再発や転移のリスクが高くなる可能性の報告もあります。さらに、悪性軟部腫瘍では遠隔転移は肺転移が多いとされていますが、粘液型脂肪肉腫では肺以外の部位への転移も多いとされています。しかし、どのような腫瘍が再発や転移をきたしやすいかはまだ不明な点が多いとされています。そこで、我々は、ペルオキシゾーム増殖剤応答性受容体ガンマ (PPAR $\gamma$ ) という遺伝子に注目しました。PPAR $\gamma$ は主に脂肪組織に分布して脂肪細胞分化などに関与するとされていますが、その他に抗糖尿病作用、抗動脈硬化作用、骨代謝、抗腫瘍作用、抗炎症作用を有することが報告されています。例えば、PPAR $\gamma$ の活性化は種々の腫瘍に対してアポトーシス（腫瘍死）を引き起こすことが報告され、乳癌や大腸癌、肺癌など様々な癌細胞においてPPAR $\gamma$ が発現していることが確認されています。しかしながら、これまでに粘液型脂肪肉腫でのPPAR $\gamma$ の発現の報告はありますが、その発現と再発や転移に関する報告はありません。それらを解析することで、腫瘍の進行の予測など応用できる可能性が期待されます。

## **<研究機関ならびに対象>**

金沢大学附属病院整形外科において 1987年7月3日（金）～2012年12月3日（月）までに手術を受けられた患者様全員が対象です。

## **<研究の方法>**

本研究ではこれまでに手術で切除した腫瘍から作成された病理標本の一部と腫瘍組織から抽出した核酸（RNA）を用いて解析することにより実施します。

本研究によって新たな受診や検査などが必要になることはありません。

## **<個人情報保護への配慮>**

本研究で用いられる資料では個人情報は匿名化され、個人が特定されることはありません。また、個人が特定されるような情報は一切公表されません。

この研究に参加するかどうかは患者様の自由であり、たとえ研究への参加を拒否された場合でも不利益を受けることは一切ありません。上記の研究対象に該当する患者様で、ご自身の検体を本研究に使わないで欲しいというご希望やご質問があれば、平成28年12月31日までに下記の窓口までご連絡ください。

## **<研究参加に伴う費用について>**

本研究はこれまでに手術により切除した試料を用いて実施いたします。そのため患者様に新たな費用が生じることはありません。

なお、この研究への協力に対しての報酬はありません。

## **<解析結果の開示について>**

本研究で得られた結果については、患者様および代諾者さまに開示することは原則ありません。

## **<知的財産権について>**

本研究により知的財産権が発生した場合も試料を提供した方に知的財産権は発生しません。

## **<研究機関および研究責任者>**

研究機関名：金沢大学医薬保健研究域医学系機能再建学

研究責任者：土屋 弘行（教授）

**<問い合わせ、苦情等の窓口>**

金沢大学附属病院整形外科 武内 章彦（助教）

〒920-8641 金沢市宝町 13-1

電話 076-265-2374 FAX 076-234-4261